

東海東京証券 様

主要拠点間での日々の遠隔会議にポリコムを活用。
事業推進に欠かせない重要インフラとしての役割を担う。



Shinji Hatanaka

畠中 慎治 様
東海東京証券株式会社
企画部 管理・統制G
グループリーダー兼
企画G主任調査役(東京)



Masashi Satou

佐藤 正志 様
東海東京ビジネスサービス
株式会社
基盤システム部
マネージャー



主要拠点の役員による重要会議に使用される、東京本部の役員会議室。フルHD画質のポリコム端末と80型大型ディスプレイを組み合わせ、多地点ビデオ会議時でも互いの表情が伝わりやすい環境が整う。天井吊り下げ型マイクの採用など、会議に集中するための配慮も行き届いている。

■導入システム一覧

- 東海東京証券
□ビデオ会議システム
■HDX 8000
■HDX 7000
■HDX 6000
■RealPresence Group 300
EagleEye Acoustic カメラモデル

- 東海東京ビジネスサービス
□多地点接続サーバー
■多地点接続サーバー RMX 1500
20HD/60CIFポート構成モデル
■多地点会議予約システム
Meeting Organizer

製品導入の きっかけ

名古屋を中心とする中部地区で築いた確固たる営業基盤をベースに、充実した営業ネットワークのもと全国で事業を展開する東海東京証券様。国内に複数の拠点・店舗を構える同社では、2000年代初頭よりポリコムのビデオ会議システム(以下ポリコム)を導入・活用されています。

「名古屋の本社をはじめ、東京(2拠点)、大阪、福岡に主要拠点がある関係上、もはや当社ではビデオ会議なしで業務を推進することはできません」と語るのは、同社の役員を中心とする会議のマネジメントを担当する、企画部の畠中慎治氏。毎朝、トップと各拠点の役員が顔を揃え、前日の業務進捗報告や指示、情報の共有を行う「経営朝会」を筆頭に、日々さまざまな重要会議体がポリコムで進行されているといいます。

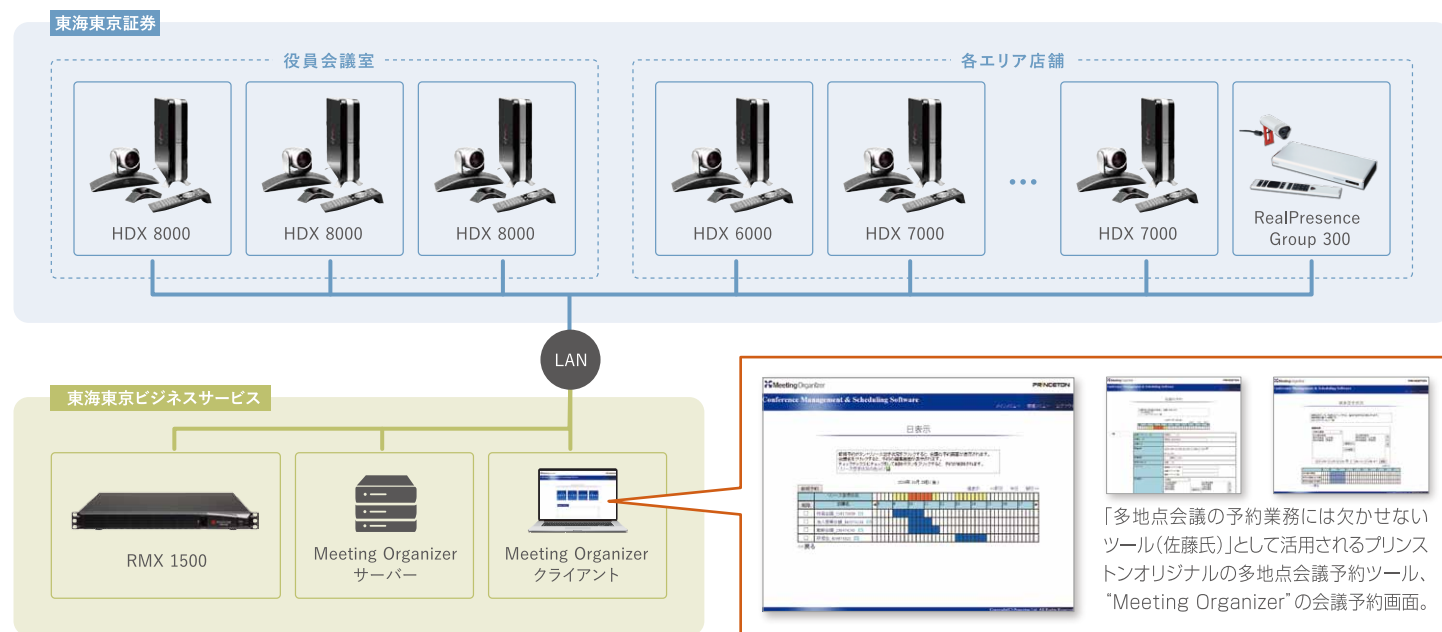
ポリコム導入の背景について、同社のITシステ

拠点間の距離を超えた役員会議を実現するため、早い段階から導入

ム全般の導入～運用・サポートを担う、東海東京ビジネスサービスの佐藤正志氏は「もともと経営会議の実現のために導入したもので、当時からポリコムの会議クオリティには定評があり、業界のデファクトスタンダードであった点や安定運用に耐えうる性能を評価したと当時の上司から聞いています」と語ります。

役員会議では重要な意思決定や情報共有を遠隔地から確実に行う必要があるため、役員の方々の会議品質へのこだわりは強く、「とりわけ、聞き違いや理解に食い違いが生じない音声品質の確保は不可欠ですが、現状では不満の声が出ることもなく良好な状態です」と畠中氏。同社の役員会議向けシステムには、ポリコムの音声技術が最大限に発揮されるよう東海東京ビジネスサービスによる入念な調整が施されており、極めて高水準なビデオ会議環境が構築されています。

[システム概要]

会議運用の
ポイント

使いやすい多地点会議予約ツールにより、
会議の運用性とセキュリティを向上

現在、同社の主要拠点には計16台のポリコム・ビデオ会議端末が導入され、先の役員会議をはじめ、拠点や部署をまたいだ社員間の連携にも日常的に活用されています。また、名古屋と東京で本社機能が二分された2009年には同時接続数の増加を見越して、多地点接続サーバーを導入。また、プリンス トンオリジナルの多地点会議予約ツール“Meeting Organizer”も併せて導入し、多地点接続サーバーを利用したビデオ会議を実施する場合には、東海東京ビジネスサービス様が会議の予約登録を代行する仕組みが取られています。

「東海東京証券社内のビデオ会議接続は社員で自由に行えますが、グループ会社との接続や多地点会議接続については、コンシェルジュ役を務める私どもにご依頼いただいています。これは機密情報を多く扱う証券会社として、グループ会社間での誤接続などに伴うリスクに考慮した結果です」と佐藤氏。こうして接続を制限・管理することで、万一の情報漏洩などに対する万全のセキュリティ対策が図られています。

そのため、東海東京証券様から寄せられるビデオ会議の予約依頼数は1日平均で10件ほどにもなり、突発的な予約依頼が加わる場合も少なくないそうですが、「当社では多地点接続サーバーの導入当初から、多地点会議予約に“Meeting Organizer”を活用しており効率的な対応ができています。Webブラウザベースの使いやすいツールで、ポリコム標準のツールに比べて入力項目も簡単で、予約状況も把握しやすいので非常に助かっています」と佐藤氏は評価します。

ポリコムの
導入価値

拠点を越えた会議を促進する使いやすさと
安定した運用性で、事業活動に貢献

ポリコムの使い勝手については、「経営の意思を全社員が理解・共有するには、トップや役員、部長クラス、各部門や拠点の社員といった階層ごとに各々が立場や役割に応じた会議を行う必要があります。そんな中で、テレビをつけるほどの手軽さで会議をすぐに開始できるポリコムの存在価値は大きい」と畠中氏は述べられます。

一方の管理者側の視点としても、「業務ツールである以上、つねに安定運用できることが重要ですが、その意味でポリコムの会議システムは最も信頼できると考えています。それに、プリンス トンさんが、いろいろとサポートをしてくれる点も心強い。トラブル時の対応や導入時のアドバイスなどにもいつも的確に答えてもらっています」と佐藤氏。

同社のコミュニケーションインフラの一端を担うポリコムを、より快適に安心してご活用いただけるよう、プリンス トンでは今後も最大限のサポートの提供に努める所存です。

東海東京証券株式会社

東京証券と東海丸万証券の合併により、2000年に発足。2009年に持株会社体制へ移行後は、東海東京ファイナンシャル・グループの中核を担う証券会社として、全国規模で営業を展開。お客さまにいつでも選ばれるワンランク上の証券会社「プレミアハウス」を目指しています。



所在地: 〒450-6212 愛知県名古屋市中村区名駅4-7-1
設立: 2008年 ウェブサイト: <http://www.tokaitokyo.co.jp/>

取材時期: 2016年10月

お問い合わせ

E-mail dcs-info@princeton.co.jp

輸入販売代理店

株式会社プリンス トン URL <http://www.princeton.co.jp/>



PolycomおよびPolycomのロゴ、また、polycom, Inc.の米国およびその他の国における商標です。本紙に掲載している会社名と製品名は米国またはその他の国における商標登録です。本紙に掲載している製品写真は出荷時のものと一部異なる場合があります。本紙の本文内ではTMマークや®マークは明記していません。